

かほく市議会 総務建設常任委員会 視察報告

【研修日程】

平成28年5月17日（火）～19日（木）〔2泊3日〕

【視察研修先及び内容】

1. 福岡県糸島市 : 有害鳥獣対策と捕獲後の有効活用
2. 佐賀県鳥栖市 : 組織マネジメントの強化「部課長の仕事宣言」

【参加者】

総務建設常任委員長	坂井	正靱
副委員長	板谷	悦郎
委員	猪村	博靖
	寺内	照雄
	金田	正信
	多々見	邦次
	杉本	正一（議長）

随行 森 益啓



糸島市役所



鳥栖市役所

(糸島市)

糸島市は、福岡県の西部の糸島半島に位置し、北側には玄界灘に面した美しい海岸線が広がり、また、南側には背振山系の山々が連なっております。

東は福岡市、西は佐賀県唐津市、南は佐賀市と接し、福岡市中心から約 30 分の時間距離であり、博多駅や福岡空港にも直通でアクセスでき、交通利便性が高い地域で、平成 22 年 1 月に、前原市と二丈町、志摩町が合併し誕生した市であり、人口約 10 万人、面積 215.7 平方キロメートルであります。

また、農畜産品や海産物などは、安全・安心な新鮮でおいしい食材として「糸島ブランド」が定着しています。

自然が豊かであることから、レジャースポットとして、多くの人々が訪れているようでもあります。

(有害鳥獣対策と捕獲後の有効活用について)

糸島市における有害鳥獣被害対策についてであります。農作物被害額は年間に約 8 千万円であり、鳥獣別被害額はイノシシ、アナグマ、カラスの順となっており、イノシシによるものが約 4 割を占め、農作物別の被害は、野菜、稲、果樹が多く、イノシシの捕獲数は年々増加傾向にあり、平成 26 年度においては約 2 千頭を捕獲したとのことでした。

本市に比べ非常に大きく、有害鳥獣対策が深刻な問題であると感じました。

捕獲対策としては、糸島猟友会会員から選抜された糸島市有害鳥獣捕獲会による捕獲を年に 3 回実施しており、その他、地域からの駆除要請や臨時的な被害に対応できる糸島市鳥獣被害対策実施隊がほぼ一年中活動をしているとのことでした。

イノシシの捕獲等報奨金は国庫補助事業のほか、市独自のもので、一頭当たり 2 千円とし、年間予算は 340 万円としておりましたが、平成 27 年度よりアナグマ、アライグマなども報奨金の対象とし、予算も 380 万円に増額したとのことでした。

被害防止対策として、福岡県の支援事業などにより、毎年金網や電気柵を設置するとともに、イノシシ加工処理施設を設けたとのことでした。

取り組みの課題として、イノシシやアナグマなどの獣類は、捕獲はしているものの近年、冬の寒さが厳しくなく、個体数が増加傾向となっていることやアナグマの生息範囲が山際から市街地までとなっていることから、農作物のほか生活環境被害も拡大しているとのことでした。

糸島市にあるイノシシ処理加工施設整備及び管理運営の概要については、捕獲体制の強化と併せ捕獲獣の有効活用の機運が高まり、平成 23 年度に約 1 千 260 万円で県の補助事業により建設され、規模は木造平屋建て、面積約 54 平方メートルで稼動しましたが、手狭なこともあり、平成 27 年 10 月に増築しました。

現在は、名称を浮嶽くじらセンターとし、浮嶽くじら処理加工組合が管理運営を行い、平成 27 年は 62 頭の解体処理を行っており、販売額は約 200 万円、決算で捕獲報償金や県補助金等を充当したことにより、ようやく約 62 万円のプラスとなったようです。

また、販路を拡大するために、生の肉だけでなく、ウィンナーやジャーキーなどの加工品開発を行い、販売は市内の直売所を中心にしていましたが、これからは、通販を含む小売にシフトしていくとのことでありました。

課題としては、イノシシ肉は美味しくても値段が高い。組合内には営業に関する知識がある者がいない。捕獲頭数が不安定である。などがあげられておりました。

処理施設は、一部住民の反対により、なかなか建設地が決まらなかったなどの苦労話も聞くことができました。

かほく市においても、有害鳥獣対策、特にイノシシに対しては、重要な課題であり、有害鳥獣の有効処理についても慎重に検討していくべきと感じました。

(鳥栖市)

鳥栖市は、佐賀県の北東部、福岡県に接しており、九州の主要都市に通じる高速道路、鉄道が交わる交通の要衝となっており、その特性を生かして内陸工業都市・流通拠点都市として発展しております。

人口は約7万3千人、面積は71.72平方キロメートルであり、日本全体の人口が減る中で現在も人口は増加しているとのことでした。

市内には、製薬会社、タイヤ製造工場、清涼飲料製造工場などの事業所が操業しているほかに、Jリーグに加盟しているサッカークラブ、V・プレミアムリーグ女子で活躍しているチームの本拠地となっており、2つのプロスポーツの活躍などから活気のある街と感じました。

また、鳥栖駅の近くには、サッカークラブのホームスタジアムがありスポーツ文化の高さに強い印象を受けました。

(組織マネジメントの強化「部課長の仕事宣言」について)

「部課長の仕事宣言」についてですが、部長及び課長の業務における目標宣言であり、目標を宣言することにより、業務方針を明らかにし、部全体または課単位で目標の共有を図り、市役所の各部、各課は、目標達成に向けた取り組みを進め、業務目標を果たすことができたかを評価し、結果をホームページにおいて公表するものであります。

「部課長の仕事宣言が目指すもの」として、部長、課長の目標管理ツール、市民の皆様との約束事、鳥栖市における重点施策の進行管理ツールとのことでありました。

これまでの経緯は、部課長の仕事宣言は平成20年度から導入し、平成23年度からは、第6次鳥栖市総合計画の実施に伴い、総合計画の体系に併せた仕事宣言に変更したとのことでした。

総合計画との関連についてであります。総合計画には重要事業、課題の解決策、鳥栖市の魅力を高める取り組みである、リーディングプロジェクトと呼ばれるものがあります。

鳥栖市の場合、10のプロジェクトが位置づけられており、部長の仕事宣言は、リーディングプロジェクトの進行管理を主とした内容となり、課長の仕事宣言は、そのプロジェクトに関する具体的取り組みから作成するとの説明でありました。

仕事宣言を実施したことによる効果については、組織全体の方針と、職員一人ひとりの職務における方向性や価値観を合致することにより、職員の意識改革、組織改革が進められたとのことでした。

このようなことから、仕事宣言と総合計画を連動させることにより、総合計画の進捗度などの検証ができ、公表していることは、透明性のある取り組みと感じました。

かほく市においても今以上に行政運営の効率化をさらに進めていくべきと感じました。